

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・豪州、アルゼンチン、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

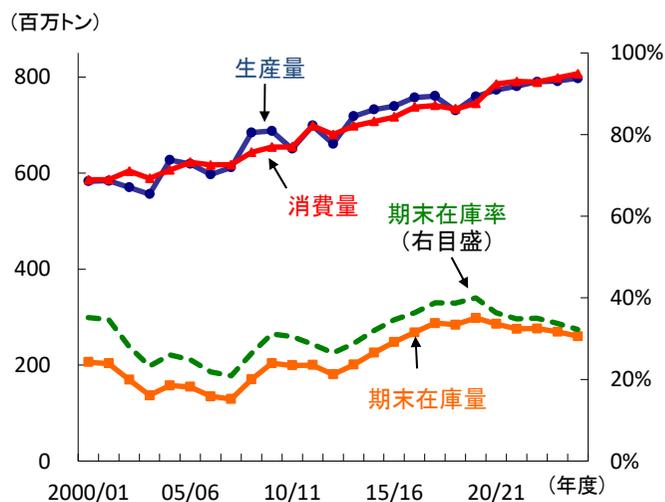
消費量 前年度比 前月比

- ・イラン等で下方修正されたものの、EU、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・豪州等で上方修正されたものの、EU、ロシア、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2025. 3. 11) をもとに農林水産省にて作成

◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

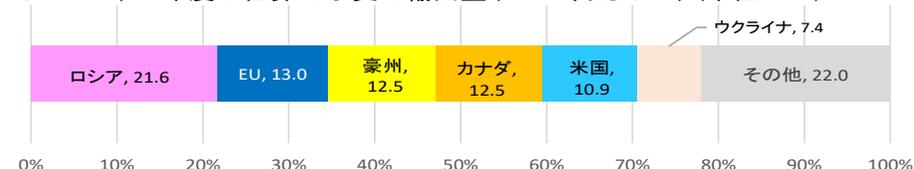
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.9	791.2	797.2	3.4	0.8
消費量	789.3	797.9	806.7	2.9	1.1
うち飼料用	152.8	159.2	154.9	1.3	▲ 2.8
輸出量	221.8	221.2	208.1	▲ 0.9	▲ 5.9
輸入量	213.6	222.3	202.7	▲ 2.1	▲ 8.8
期末在庫量	276.1	269.5	260.1	2.5	▲ 3.5
期末在庫率	35.0%	33.8%	32.2%	0.2	▲ 1.5

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 March 2025)

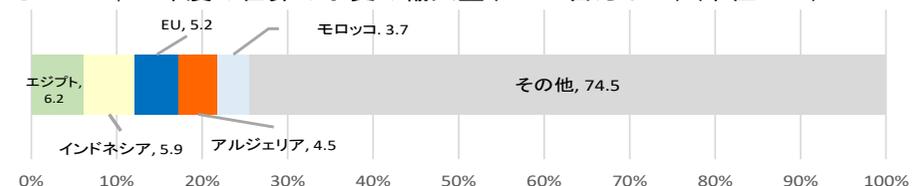
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(797.2百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(208.1百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(202.7百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 22.7 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去5年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング（HRS）が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.1.14）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作付面積は 1,381 万ヘクタールと、カンザス州、オクラホマ州等で減少するものの、テキサス州、モンタナ州、ワシントン州等で増加することから、前年度（1,351 万ヘクタール）と比べ 2.2%増となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.3.13）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作柄を 2月2日現在と 3月9日現在で比較した場合、「良～やや良」の割合は、主要な生産州では、カンザス州 52%、オクラホマ州 46%と 2月からわずかに改善したものの、テキサス州は 28%と大きく低下した。また、3月4日現在、2025/26 年度の冬小麦生産の約 24%が干ばつ地域にあると推定されており、前月（2月4日）から 1ポイント増加したものの、干ばつのピークであった 2024 年 10 月の 60%からは大幅に改善している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、HRS、SRW 及び Durum の輸出量引下げを受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 22.7 百万トンとなるものの、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 18.1%増。一方で過去5年平均（23.0 百万トン）と比べ 1.2%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～2025 年 1 月の輸出量は、1,397.4 万トンと前年同期（1,126.9 万トン）と比べ 24.0%増。国別にはメキシコ 251.4 万トン（18.0%）、日本 166.0 万トン（11.9%）、フィリピン 158.0 万トン（11.3%）の順となっている。一方、中国への輸出量は 15.3 万トン（1.1%）と大きく減少している。

2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げ及び輸入量の引上げを受け前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 22.3 百万トンと、前年度と比べ 17.7%増となる見込み。

小麦—米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.1	53.7	-	9.3
消費量	30.3	30.2	31.4	-	4.1
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	-	41.6
輸 出 量	20.7	19.2	22.7	▲ 0.4	18.1
輸 入 量	3.3	3.8	3.8	0.3	1.3
期末在庫量	15.5	19.0	22.3	0.7	17.7
期末在庫率	30.4%	38.4%	41.2%	1.5	2.8

(参考)
 収穫面積(百万ha) 14.36 15.01 15.57 - 3.7
 単収(t/ha) 3.13 3.27 3.45 - 5.5
 資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
 「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国産小麦の輸出量の推移（累計）



資料：USDA「Wheat Data」（2025.3.12）をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)			2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)			2024/25年度 (2024年6月～2025年1月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	365.4	18.0	メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	251.4	18.0
日本	206.1	10.2	フィリピン	274.5	14.7	日本	166.0	11.9
フィリピン	204.1	10.1	中国	216.9	11.6	フィリピン	158.0	11.3
中国	147.2	7.3	日本	197.1	10.5	韓国	150.2	10.7
韓国	120.6	6.0	韓国	130.1	6.9	台湾	72.1	5.2
ナイジェリア	81.9	4.0	台湾	110.5	5.9	タイ	60.8	4.4
その他	901.7	44.5	その他	618.1	33.0	その他	538.9	38.6
計	2,027.0	100.0	計	1,873.0	100.0	計	1,397.4	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2025/26 年度の作付意向面積は前年度から 2.6%増加の見込み（カナダ統計局）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2025.3.21）によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 35.0 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度（32.9 百万トン）と比べ 6.1%増、過去 5 年平均（31.7 百万トン）と比べても 10.4%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 29.1 百万トンと、前年度（28.9 百万トン）と比べ 0.8%増、過去 5 年平均（26.8 百万トン）と比べても 8.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量になる見込み。デュラム小麦も 5.9 百万トンと、前年度（4.1 百万トン）と比べ 43.6%増、過去 5 年平均（4.9 百万トン）と比べても 19.8%増となる見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2025」（2025.3.12）によれば、2025/26 年度の小麦の作付意向面積は、1,111.9 万ヘクタールと、高品質小麦に対する世界的な強い需要を受け前年度（1,083.5 万ヘクタール）と比べ 2.6%増となる見込み。種類別には、春小麦が 785.9 万ヘクタールと前年度（766.6 万ヘクタール）と比べ 2.5%増、デュラム小麦が 257.7 万ヘクタールと前年度（257.5 万ヘクタール）と比べわずかに増加、冬小麦が 68.3 万ヘクタールと前年度（59.3 万ヘクタール）と比べ 15.1%増となる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 26.2 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）と比べ 3.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.3 百万トンと、増産となるものの、低品質な小麦が増加し飼料用消費量が増加すること等から前年度（21.8 百万トン）と比べ 2.4%減となる見込み。デュラム小麦は 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度（3.5 百万トン）と比べ 38.1%増となる見込み。

カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 1 月の輸出量は、1,315.1 万トンと、前年同期（1,224.1 万トン）と比べ 7.4%増。種類別には、普通小麦が 1,033.3 万トンと、前年同期（1,065.5 万トン）と比べ 3.0%減となっており、国別にはインドネシア 117.2 万トン（11.3%）、日本 98.3 万トン（9.5%）、ペルー 77.9 万トン（7.5%）の順。デュラム小麦は 281.9 万トンと、前年同期（158.6 万トン）と比べ 77.7%増となっており、国別にはイタリア 64.1 万トン（22.7%）、モロッコ 62.2 万トン（22.1%）、アルジェリア 51.4 万トン（18.2%）の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 4.4 百万トンと、前年度（4.6 百万トン）と比べ 3.9%減となる見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.8	33.0	35.0 (35.0)	-	6.1
消費量	8.3	9.1	9.5 (9.1)	-	4.3
うち飼料用	3.2	4.0	4.3 (4.7)	-	7.0
輸 出 量	25.6	25.4	26.0 (26.2)	-	2.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.6 (4.4)	-	0.2
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.9% (12.5%)	-	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.65 (10.65)	-	▲ 0.5
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.28 (3.28)	-	6.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)、
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 March 2025)

表 カナダ産小麦の作付面積の推移

（単位：万ヘクタール）

	2023/24 年度	2024/25 年度	2025/26 年度	対前年度 増減率(%)
春小麦	789.0	766.6	785.9	2.5
デュラム小麦	244.2	257.5	257.7	0.05
冬小麦	61.5	59.3	68.3	15.1
小麦計	1,094.7	1,083.5	1,111.9	2.6

資料：カナダ統計局「Principal field crop areas, 2025」（2025.3.12）
をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン）

2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年1月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	296.8	15.1%	中国	310.3	14.7%	インドネシア	117.2	11.3%
インドネシア	213.8	10.9%	インドネシア	251.9	11.9%	日本	98.3	9.5%
日本	167.3	8.5%	日本	173.9	8.2%	ペルー	77.9	7.5%
ペルー	148.3	7.5%	バングラデシュ	172.7	8.2%	コロンビア	71.3	6.9%
バングラデシュ	144.4	7.3%	ペルー	137.3	6.5%	米国	61.7	6.0%
その他	996.1	50.7%	その他	1,069.2	50.5%	その他	606.8	58.7%
計	1,966.6	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,033.3	100.0%

○デュラム小麦（輸出量：万トン）

2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年1月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
イタリア	121.0	23.8%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	64.1	22.7%
アルジェリア	120.8	23.8%	モロッコ	81.7	23.8%	モロッコ	62.2	22.1%
モロッコ	85.7	16.9%	米国	46.2	13.5%	アルジェリア	51.4	18.2%
米国	50.4	9.9%	イタリア	44.7	13.0%	米国	28.0	9.9%
チュニジア	32.5	6.4%	日本	21.2	6.2%	スペイン	16.9	6.0%
その他	96.8	19.1%	その他	60.4	17.6%	その他	59.4	21.1%
計	507.3	100.0%	計	343.5	100.0%	計	281.9	100.0%

資料：CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25年度の生産量は前月から下方修正され119.0百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」(2025.2.27)によれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から0.07百万トン下方修正され119.0百万トンとなる見込み。2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度(132.6百万トン)と比べ10.3%減、過去5年平均(133.4百万トン)と比べても10.8%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から0.06百万トン下方修正され111.8百万トンと、前年度と比べ10.7%減、過去5年平均と比べても11.2%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け前年度比27.0%減の25.4百万トン、ドイツも同14.4%減の18.1百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測からわずかに下方修正され7.2百万トンと、前年度と比べ2.7%減、過去5年平均と比べても4.4%減となる見込み。国別にはイタリアが前年度比5.1%減の3.5百万トン、フランスも同6.3%減の1.2百万トンとなる一方、スペインが干ばつからの回復により同64.8%増の0.7百万トンとなる見込み。

現地情報会社によれば、2月24日時点で2025/26年度の冬作物は大半が平年並みから良好となっている。【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく25.7百万トンと、減産を受け前年度(36.4百万トン)と比べ29.4%減となる見込み。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11)によれば、2024/25年度の実生産量は2007/08年度(120.8百万トン)以来最低となっており、2024/25年度の実輸出量は27.0百万トンと、6年ぶりの低水準となる見込み。EUの主要輸出国であるフランスの減産によりフランスの輸出シェアが減少する一方、ルーマニアやブルガリアの輸出シェアが増加している。ECによれば、2024/25年度のうち2024年7月～12月の輸出量は、1,387.0万トンと、前年同期(1,861.5万トン)と比べ25.5%減。種類別には、普通小麦が1,347.2万トンと、前年度と比べ26.5%減となる一方、デュラム小麦は39.8万トンと、ルーマニアやギリシャ等の輸出量が増加したことから同41.7%増。2024/25年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく10.0百万トンと、ウクライナからの輸入が減少すること等から前年度(12.1百万トン)と比べ17.3%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月～12月の輸入量は、544.8万トンと、前年同期(640.0万トン)と比べ14.9%減。種類別には、普通小麦が462.1万トンと、前年度と比べ4.2%減。デュラム小麦も82.7万トンと、同47.6%減。

2024/25年度の期末在庫量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から0.07百万トン下方修正され10.6百万トンと、供給量の減少から前年度(18.0百万トン)と比べ40.9%減となる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.5	135.1	121.3 (119.0)	-	▲10.2
消費量	109.0	110.5	109.8 (110.6)	0.5	▲0.7
うち飼料用	45.0	46.5	45.5 (45.8)	0.5	▲2.2
輸出量	35.1	38.0	27.0 (25.7)	▲1.0	▲28.9
輸入量	12.2	12.7	10.5 (10.0)	▲0.5	▲17.0
期末在庫量	16.3	15.5	10.6 (10.6)	-	▲31.9
期末在庫率	11.3%	10.5%	7.7% (7.8%)	0.03	▲2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.44	24.34	22.83 (22.23)	-	▲6.2
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.31 (5.35)	-	▲4.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)、
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(27 February 2025)

図 EU27の小麦生産量の推移



資料: EC 「EU cereals production, area and yield」(2025.2.27)
をもとに農林水産省で作成

表 EU27の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量				O輸入量					
国名	2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)		国名	2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ナイジェリア	348.9	9.6	177.7	12.8	ウクライナ	648.7	53.6	293.4	53.9
アルジェリア	396.7	10.9	167.6	12.1	カナダ	138.5	11.4	107.7	19.8
エジプト	178.3	4.9	122.2	8.8	モルドバ	73.6	6.1	37.3	6.8
モロッコ	489.1	13.5	120.4	8.7	米国	34.2	2.8	32.8	6.0
英国	139.2	3.8	114.3	8.2	英国	52.1	4.3	21.6	4.0
アンゴラ	82.6	2.3	54.5	3.9	トルコ	76.8	6.3	20.7	3.8
その他	1,999.5	55.0	630.3	45.4	その他	186.8	15.4	31.3	5.8
合計	3,634.3	100.0	1,387.0	100.0	合計	1,210.6	100.0	544.8	100.0

資料: EC 「EU trade for cereals」(2025.2.27)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 45.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、単収の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 81.6 百万トンとなるものの、霜害と高温乾燥により前年度と比べ 10.8%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.3%減となる見込み。種類別には、冬小麦が収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から 1.7 百万トン下方修正され 55.8 百万トンと、前年度（64.0 百万トン）に比べ 12.8%減。春小麦は単収の引上げを受け前月予測から 1.8 百万トン上方修正され 25.8 百万トンとなるものの、前年度（27.5 百万トン）と比べ 6.2%減となる見込み。

ロシア気象センターによれば、冬小麦の主要産地である欧州部では、雪が少なく暖冬であったことから秋播き作物は冬の間も生育が続き、越冬開始前よりも作物の状態が改善した。一方で降雨・降雪不足による土壌水分の不足は今後の作物の生育に悪影響を与える可能性がある。

【貿易情報・その他】ロシア連邦政府は、2024 年 12 月 20 日、2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.1.10) によれば、ロシアは 2024/25 年度の供給量が大きく減少したが、2024/25 年度前半（2024 年 7 月～12 月）で 29.4 百万トンを輸出し、史上最高の輸出量である前年同期（27.7 百万トン）を上回った。12 月 1 日現在のロシアの農場の小麦在庫は前年比 25%減となり、政府は、ロシア国内への供給を維持し、食料品価格の上昇を抑制するため、2024/25 年度後半の輸出枠を過去 5 年間で最小となる 1,060 万トンに設定した。2025 年 2 月以降、ロシアの輸出は減速する見込み。USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、1 月以降の低調な輸出を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 45.0 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 18.9%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べ 6.1%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 2 月の輸出量は 3,290.8 万トンと、前年同期（3,534.5 万トン）と比べ 6.9%減となっている。国別には、エジプト 701.7 万トン（21.3%）、バングラデシュ 234.0 万トン（7.1%）、トルコ 208.5 万トン（6.3%）の順。なお、2 月のみの輸出量は 184.5 万トンで前年同月（425.1 万トン）と比べ 56.6%減と、輸出量が大きく減速している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引上げ及び輸出量の引下げを受け前月予測から 0.6 百万トン上方修正され 10.3 百万トンとなるものの、前年度と比べ 11.5%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	92.0	91.5	81.6 (81.3)	0.1	▲ 10.8
消費量	41.0	39.0	38.3 (39.0)	-	▲ 1.9
うち飼料用	18.0	16.0	15.5 (16.0)	-	▲ 3.1
輸出量	49.0	55.5	45.0 (43.7)	▲ 0.5	▲ 18.9
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.4)	-	-
期末在庫量	14.4	11.7	10.3 (9.7)	0.6	▲ 11.5
期末在庫率	16.0%	12.4%	12.4% (11.7%)	0.8	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	27.80 (27.73)	▲ 0.20	▲ 3.6
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.94 (2.93)	0.03	▲ 7.3
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(11 March 2025) IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)					

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2025. 3. 11)をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年2月)		2024/25年度 (2025年2月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
エジプト	868.3	エジプト	701.7	エジプト	89.4
トルコ	691.9	バングラデシュ	234.0	サウジアラビア	13.4
バングラデシュ	350.2	トルコ	208.5	ナイジェリア	9.3
アルジェリア	236.8	アルジェリア	166.3	リビア	8.9
サウジアラビア	224.8	ケニア	139.9	タンザニア	8.7
カザフスタン	222.2	ナイジェリア	132.5	イスラエル	8.0
パキスタン	213.0	サウジアラビア	119.6	トルコ	6.3
その他	2,608.8	その他	1,588.3	その他	40.5
計	5,416.0	計	3,290.8	計	184.5

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> 2024/25年度の生産量は前月から上方修正され23.4百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実生産量（クリミア地域分を含む）は、単収の引上げを受け前月予測から0.5百万トン上方修正され23.4百万トンと、前年度と比べ1.7%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べ16.2%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2月初旬の数日は温暖であり、以降は平年比で寒冷となり雪やみぞれが降った地域もあったものの、降水量は全体的に不足している。冬小麦を含む2025/26年度の秋播き作物だけではなく、今後の春小麦の播種にも影響することから更なる降雨が必要となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく15.5百万トンと、期首在庫量の減少等により前年度と比べ16.6%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても14.4%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

また、2025年2月の情報によれば、ハンガリー、スロバキア、ルーマニア及びブルガリアの農業相は、EUが2022年6月に導入したウクライナ産品に対する輸入関税と輸入割当の停止措置の期限（2025年6月5日）後にウクライナ農産品に対する輸入割当の復活を要請する書簡を共同で欧州委員会に送付した。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25年度のうち2024年7月～2025年2月の輸出量は1,193.6万トンと、前年同期（1,177.3万トン）と比べ1.4%増となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し73.7%を輸出している。国別には、スペイン290.7万トン（24.4%）、インドネシア155.5万トン（13.0%）、エジプト120.4万トン（10.1%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、アルジェリアに加え、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。現地情報会社によれば、シェア増加の要因は、アルジェリアは同国市場で大きなシェアを占めていたフランスの小麦生産量が大きく減少したこと、アジア諸国は飼料穀物の需要が増加していることやルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する臨時回廊により遠方への輸出が安定してきたことが挙げられる。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の引上げ等を受け前月予測から0.4百万トン上方修正され1.7百万トンと、前年度と比べ138.0%増となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

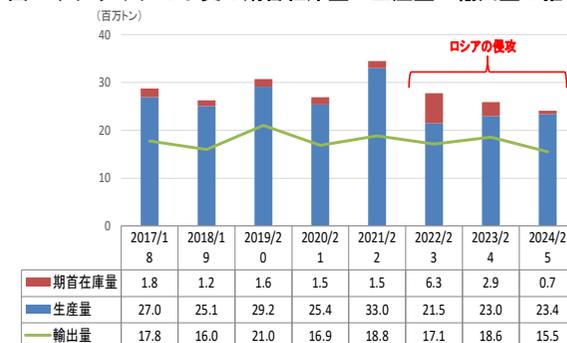
（単位：百万トン）

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	21.5	23.0	23.4 (25.4)	0.5	1.7
消費量	7.8	6.7	7.0 (8.3)	0.1	4.5
うち飼料用	3.0	2.0	2.3 (1.4)	0.1	15.0
輸出量	17.1	18.6	15.5 (17.4)	-	▲ 16.6
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.7 (0.7)	0.4	138.0
期末在庫率	11.8%	2.8%	7.5% (2.6%)	1.8	4.7

(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.50 (4.11)	0.10	▲ 2.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)、
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.3.11)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年2月)		2024/25年度 (2025年2月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
スペイン	589.9	スペイン	290.7	スペイン	32.6
エジプト	172.1	インドネシア	155.5	エジプト	24.8
インドネシア	151.5	エジプト	120.4	アルジェリア	19.0
トルコ	107.8	アルジェリア	113.3	イタリア	18.2
ルーマニア	100.1	ベトナム	88.4	イスラエル	2.5
パキスタン	81.4	タイ	64.1	チュニジア	9.4
ベトナム	75.1	タイ	62.6	イエメン	7.2
バングラデシュ	73.7	イタリア	62.6	イスラエル	2.5
イタリア	67.7	チュニジア	61.5	ギリシャ	1.2
アルジェリア	63.3	ベングラデシュ	52.2	レバノン	1.2
その他	358.0	イエメン	36.9	ドイツ	0.5
合計	1,840.6	その他	148.0	その他	1.3
	100.0	合計	1,193.6	合計	117.9
			100.0		100.0

資料：APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 6.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.1 百万トンと、前年度より収穫面積は減少するものの、単収が増加することから前年度と比べ 2.6%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2025 年 1 月号」によれば、2025/26 年度冬小麦の主要生産地の気象条件は、冬小麦が無事に越冬するために有利な条件となっている。1 月 20 日時点の生育が良好な小麦の割合は 83.6%と、平年に比べ 1.6 ポイント高くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均（146.1 百万トン）と比べ 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 1.5 百万トン下方修正され 6.5 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和したこと等から、前年度と比べ 52.3%減となり 2019/20 年度以来の低水準の輸入量となる見込み。

2025 年 3 月 4 日、中国国务院関税税則委員会は、米国産農水産物の輸入に関し追加関税を賦課すると発表した。小麦について 15%の追加関税が賦課され 3 月 10 日から適用される。なお、3 月 10 日より前に仕出し国から出荷され 3 月 10 日から 4 月 12 日までに輸入される場合、追加関税は賦課されない。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～12 月までの輸入量は 190.0 万トンと、増産を受け前年同期（408.8 万トン）と比べ 53.5%減となっている。国別には、カナダ 66.4 万トン（国別シェア 35.0%）、米国 46.2 万トン（同 24.3%）、カザフスタン 28.4 万トン（同 15.0%）の順となっている。豪州は 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の国別シェア 46.0%から同 10.7%と大きくシェアを減らしている一方で、米国、カザフスタン及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受け前月予測から 1.5 百万トン下方修正され 129.1 百万トンと、前年度と比べ 4.0%減となる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.7	136.6	140.1 (140.1)	-	2.6
消費量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲ 1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲ 3.8
輸 入 量	13.3	13.6	6.5 (7.7)	▲ 1.5	▲ 52.3
期末在庫量	138.8	134.5	129.1 (140.0)	▲ 1.5	▲ 4.0
期末在庫率	93.2%	87.0%	84.9% (94.6%)	▲ 1.0	▲ 2.1

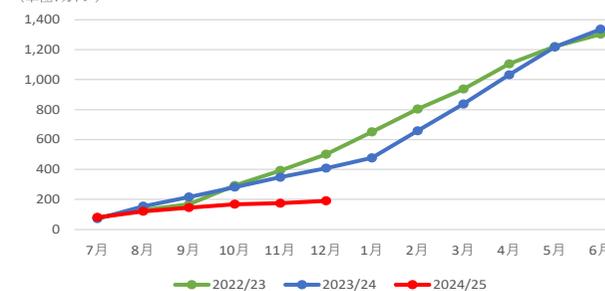
(参考)

収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.59 (23.59)	-	▲ 0.2
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.94 (5.94)	-	2.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

図 中国の小麦輸入量の推移（累計）

（単位：万トン）



資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

国 名	2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2023/24年度 (2023年7月～12月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
カナダ	307.8	23.0	121.6	29.7	66.4	35.0
米国	181.8	13.6	37.8	9.2	46.2	24.3
カザフスタン	66.8	5.0	36.1	8.8	28.4	15.0
ロシア	43.0	3.2	22.8	5.6	25.2	13.3
豪州	503.5	37.7	187.9	46.0	20.3	10.7
日本	3.3	0.2	1.8	0.4	2.6	1.3
フランス	230.1	17.2	0.4	0.1	0.7	0.4
その他	0.6	0.0	0.5	0.1	0.1	0.1
計	1,336.7	100.0	408.8	100.0	190.0	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 前月比

・南アフリカ、メキシコ等で下方修正されたものの、インド、ロシア、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

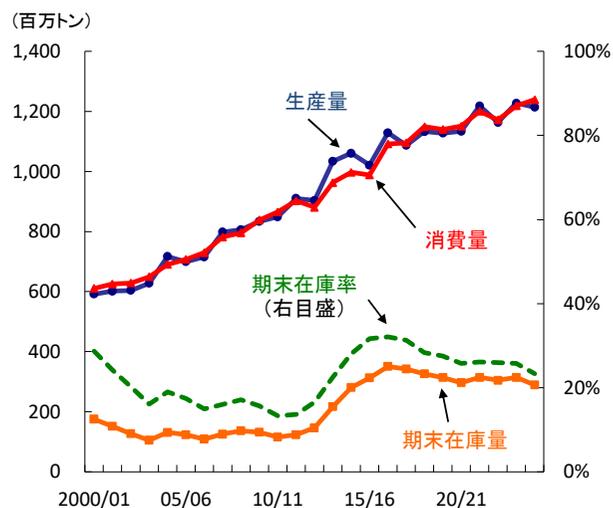
消費量 前年度比 前月比

・メキシコ等で下方修正されたものの、インド、ブラジル、トルコ、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・ブラジル、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2025.3.11)をもとに農林水産省にて作成。

◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

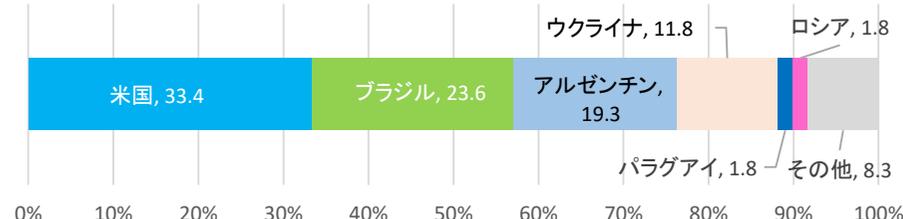
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,163.3	1,228.1	1,214.2	1.7	▲ 1.1
消費量	1,172.4	1,219.0	1,239.2	1.2	▲ 1.7
うち飼料用	735.1	772.8	779.4	1.9	0.9
輸出量	180.4	193.6	186.4	▲ 2.9	▲ 3.7
輸入量	173.4	197.8	180.3	▲ 0.9	▲ 8.8
期末在庫量	304.8	314.0	288.9	▲ 1.4	▲ 8.0
期末在庫率	26.0%	25.8%	23.3%	▲ 0.1	▲ 2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 March 2025)

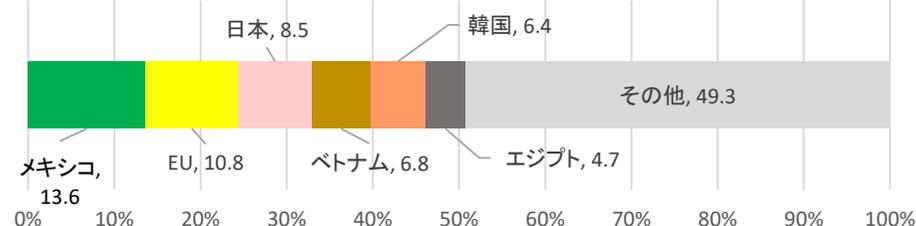
○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,214.2百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(186.4百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(180.3百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2024/25年度の生産量は史上最高の前年度から3.1%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少（対前年度比4.2%減）を受け、史上最高の前年度より3.1%減の377.6百万トンとなったものの、史上4番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の減少を受けて前年度に比べ0.1%減の321.7百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より6.9%増の62.2百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11)によれば、米国産の輸出価格は、3月7日現在、米国産の豊富な供給見込みを受けて前月から13ドル/トン下落し、213ドル/トンと、ブラジル産(226ドル/トン)、アルゼンチン産(219ドル/トン)を下回り、価格競争力を有している。なお、2024年9月～2025年2月の輸出量は2,751.4万トンと、前年同期の2,069.8万トンより32.9%増。主な輸出先は、メキシコ988.3万トン(国別シェア35.9%)、日本488.0万トン(同17.7%)、コロンビア360.2万トン(同13.1%)の順。

同「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11)によれば、米国の主要な輸出相手国であるコロンビアの2024/25年度の総輸入量は6.8百万トンと史上最高の見込み。米国産はブラジル産、アルゼンチン産に対して価格競争力を有しているため、2024/25年度の米国産のコロンビア市場におけるシェアは増加するとみられる。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より12.7%減の39.1百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.6ポイント減少し10.2%と、過去5年平均(10.7%)を下回っている。

とうもろこし—米国

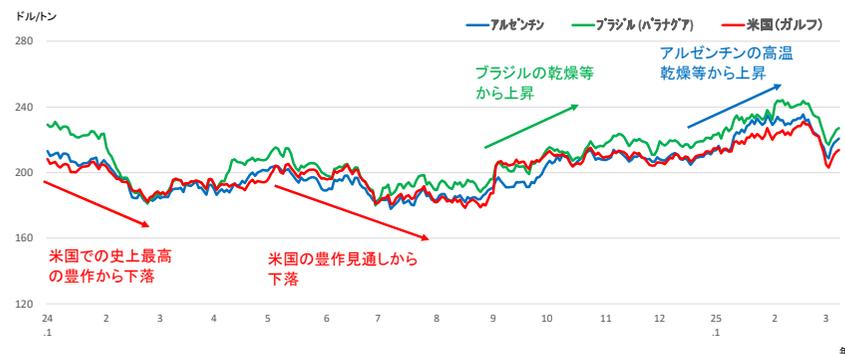
(概ね4～5月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.7	389.7	377.6	-	▲ 3.1
消費量	305.9	321.9	321.7	-	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.5	146.7	-	▲ 0.5
エタノール用等	131.5	139.1	139.7	-	0.4
輸出量	42.2	58.2	62.2	-	6.9
輸入量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.8	39.1	-	▲ 12.7
期末在庫率	9.9%	11.8%	10.2%	-	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.55	-	▲ 4.2
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.26	-	1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度から 5.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積の増加を受けて前年度より 5.9%増の 126.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。

なお、2023/24 年度の実生産量は、単収の引下げを受けて前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、史上最高の 2022/23 年度から 13.1%減の 119.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2025.3.13) によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 6.1%増の 122.8 百万トンの見込み。夏とうもろこし (ブラジルのクロープカレンダー (図) 参照) は、主要生産地の南部での単収増等を受けて、前年度比 8.3%増の 24.9 百万トンの見込み。3 月上旬現在、作付はほぼ完了。南部リオ・グランデ・ド・スール州の収穫進捗率は 76%と、前年同期 (68%) を上回っている。一方、冬とうもろこしは、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度比 5.6%増の 97.9 百万トンの見込み。3 月上旬現在、作付進捗率は 70%と、前年同期 (74%) を下回っているものの、2 月の降雨の減少を受けて急速に進展した。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」 (2025.3.11) によれば、3 月上旬、冬とうもろこしの主要生産地の中西部では降雨があり、冬とうもろこしの生育に好影響を与えている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用消費の引上げを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、生産施設への投資によるエタノールの増産見通しを受けて前年度から 3.5%増の 88.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、中国向けの輸出実績が当初予想を下回ったことを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 14.9%増の 44.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023/24 年度 (2024 年 3 月～2025 年 2 月) の輸出量は 3,819.4 万トンと、史上最高の増産となった 2022/23 年度より減産したことから前年度 (5,404.3 万トン) 比 29.3%減。内訳は、エジプト 601.2 万トン (国別シェア 15.7%)、イラン 536.9 万トン (同 14.1%)、ベトナム 450.9 万トン (同 11.8%) の順。

とうもろこしーブラジル

(夏とうもろこしは、概ね 8～翌年 1 月に作付けされ、2～4 月に収穫される。
冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1～3 月に作付けされ、6～10 月に収穫される。)

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.0	119.0	126.0 (122.8)	-	5.9
消費量	78.0	85.0	88.0 (87.0)	0.5	3.5
うち飼料用	61.5	63.5	64.5 ...	0.5	1.6
輸 出 量	54.3	38.3	44.0 (34.0)	▲ 2.0	14.9
輸 入 量	1.3	1.7	1.5 (1.7)	-	▲ 12.8
期末在庫量	10.0	7.5	3.0 (5.5)	0.1	▲ 60.3
期末在庫率	7.6%	6.1%	2.2% (4.6%)	0.1	▲ 3.8

(参考)						
収穫面積(百万ha)	22.40	21.65	22.30 (21.14)	-	-	3.0
単収(t/ha)	6.12	5.50	5.65 (5.81)	-	-	2.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 March 2025)
CONAB 「Graos」 (13 March 2025)

図 ブラジルのクロープカレンダー (中部から南部)

2024/25年度の夏とうもろこしの作付けは、2024年9月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025年1月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25年度	2024年				2025年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール州等)	作付 3.7(百万ha)				収穫 24.9(百万t) → 収穫夏冬作計 122.8百万t								
冬とうもろこし (マツ・グロソソ州、パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.1百万ha				作付 17.4(百万ha) → 収穫 97.9(百万t)								
大豆 (マツ・グロソソ州、パラナ州等)	作付 47.5(百万ha)				収穫 167.4(百万t)								

大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け

資料: CONAB 「Graos」 (2025.3.13) をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.0%減、過去 5 年平均（49.9 百万トン）より 0.2%増の 50.0 百万トンの見込み。前年度からの減産は、病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆への作付けのシフト等から収穫面積が減少したことによるとみられる。

なお、USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、収穫面積の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、干ばつにより大幅に減産した 2022/23 年度より 37.8%増の 51.0 百万トンの見込み。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.3.11) によれば、3月上旬、主要農業生産地域では、降雨を受けて、未成熟の作物の生育に好影響を与えた一方、既に成熟していた早植え作物の乾燥と収穫が遅れたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、食用等消費の増加を受けて前年度から 0.4%増の 14.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産を受けて、前年度より 1.4%減の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023/24 年度のうち 2024 年 3 月～2025 年 1 月の輸出量は 3,268.7 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（2,060.7 万トン）比で 58.6%増。内訳は、ベトナム 638.1 万トン（国別シェア 18.4%）、ペルー 405.0 万トン（同 11.7%）、マレーシア 316.2 万トン（同 9.1%）の順。

アルゼンチン政府は、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。また、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的にとうもろこしの輸出税を 9.5%に引き下げると発表した。

とうもろこしーアルゼンチン

（早植えとうもろこしは、概ね 9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年 2 月前半に作付けされる。概ね 3～8 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.0	51.0	50.0 (53.0)	-	▲ 2.0
消費量	14.2	14.3	14.3 (20.2)	-	0.4
うち飼料用	10.0	10.0	10.0 (15.1)	-	-
輸 出 量	25.2	36.5	36.0 (33.0)	-	▲ 1.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	2.3	2.6	2.3 (1.8)	▲ 0.5	▲ 11.6
期末在庫率	5.9%	5.1%	4.6% (3.4%)	▲ 1.0	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.78	6.40 (7.70)	-	▲ 17.7
単収(t/ha)	5.14	6.56	7.81 (6.88)	-	19.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

写真 北部サンタフェ州の早植えとうもろこしの圃場風景
(2025 年 2 月 24 日撮影)



当圃場のとうもろこしは 2024 年 10 月に作付けられ、現在は
完熟期にあり、水分の減少が始まっている。

撮影者：José Daniel Peloni

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 17.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、直近の収穫結果を受けて前月予測から 0.3 百万トン上方修正されたものの、前年度より 17.5%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 35.9%減の 26.8 百万トンとなる見込み。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 15.5%減）することにより、減産となる見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用消費の引上げを受けて前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、前年度から 4.0%増の 5.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産により前年度から 25.4%減の 22.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 2 月の輸出量は 1,174.0 万トンと、前年同期（2,947.0 万トン）より 60.2%減。輸出先国は、トルコ 210.8 万トン（18.0%）、スペイン 200.7 万トン（17.1%）、イタリア 181.2 万トン（15.4%）の順。時期別には、2024 年 10～11 月の輸出量は 447.0 万トンと前年同期比で 28.0%増の一方、2024 年 12 月～2025 年 2 月の輸出量は 727.1 万トンと前年同期比で 26.0%減。

ウクライナ政府は 2024 年 12 月 1 日から輸出許可制度を廃止し、輸出安全保障制度を導入した。当該制度では、最低輸出価格の設定、付加価値税を納税した事業者のみへの輸出許可、輸出業者の管理のため銀行及び税務当局との間での電子データ情報の交換が定められている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 0.1 百万トン上方修正されたものの、減産による供給減から前年度より 30.8%減、侵攻前の 5 か年平均より 70.7%減の 0.7 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前月予測から 0.4 ポイント上方修正されたものの、前年度から 0.4 ポイント減の 2.7%と、2020/21 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこし-ウクライナ

（概ね 4～5 月に作付けされ、8～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	27.0	32.5	26.8 (26.5)	0.3	▲ 17.5	
消費量	4.7	5.0	5.2 (4.7)	0.2	4.0	
うち飼料用	3.8	4.0	4.2 (3.3)	0.2	5.0	
輸出量	27.1	29.5	22.0 (22.2)	-	▲ 25.4	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	100.0	
期末在庫量	3.0	1.1	0.7 (0.7)	0.1	▲ 30.8	
期末在庫率	9.4%	3.1%	2.7% (2.7%)	0.4	▲ 0.4	

(参考)

収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.00)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.54 (6.62)	0.08	▲ 15.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 March 2025)

IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

表 ウクライナのとうもろこし輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年2月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	563.3	20.7	スペイン	617.4	21.0	トルコ	210.8	18.0
ルーマニア	392.7	14.4	中国	461.9	15.7	スペイン	200.7	17.1
スペイン	291.6	10.7	エジプト	361.9	12.3	イタリア	181.2	15.4
イタリア	236.7	8.7	オランダ	277.7	9.4	オランダ	136.2	11.6
エジプト	224.5	8.3	イタリア	253.0	8.6	エジプト	112.4	9.6
その他	1,012.4	37.2	その他	975.1	33.1	その他	332.7	28.3
合計	2,721.2	100.0	合計	2,947.0	100.0	合計	1,174.0	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受けて、前年度より 2.1%増の 294.9 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は前年より 2.1%増の 294.9 百万トンとなる見込み。作付面積が 4,474 万ヘクタールと前年より 1.2%増加し、単収も 6.59 トン/ヘクタールと、前年より 0.9%増加したことによる。なお、一部地域で洪水や干ばつ、台風等の被害を受けたものの、大半では気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なもの、伸びが鈍化しており、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、ブラジルからの輸入量の減少を受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、国内価格の下落等を受けた政策により、外国産ではなく豊作の国内産の備蓄向け購入を増加させていることから前年度より 65.8%減の 8.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～12 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 49.2%減の 1,377.5 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 646.6 万トン（46.9%）、ウクライナ 465.3 万トン（33.8%）、米国 207.2 万トン（15.0%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 1 月号」によれば、1 月の国内価格は 2,016 元/トンと、前月（2,014 元/トン）からわずかに上昇した。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、輸入量の減少を受けて前年度より 4.8%減の 201.2 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

（春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。
夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	277.2	288.8	294.9 (294.9)	-	2.1
消費量	299.0	307.0	313.0 (314.7)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (212.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.4	8.0 (9.0)	▲ 2.0	▲ 65.8
期末在庫量	206.0	211.3	201.2 (184.2)	▲ 2.0	▲ 4.8
期末在庫率	68.9%	68.8%	64.3% (58.5%)	▲ 0.6	▲ 4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.74 (44.74)	-	1.2
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.59 (6.59)	-	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2022年 1月～12月			2023年 1月～12月			2024年 1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
米国	1,486.5	72.1	ブラジル	1,280.6	47.2	ブラジル	646.6	46.9
ウクライナ	526.4	25.5	米国	714.4	26.3	ウクライナ	465.3	33.8
ミャンマー	19.4	0.9	ウクライナ	551.8	20.3	米国	207.2	15.0
ブルガリア	14.7	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ミャンマー	17.8	1.3
ロシア	9.5	0.5	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	15.5	1.1
ラオス	5.1	0.2	ロシア	29.4	1.1	ラオス	7.7	0.6
その他	0.2	0.0	その他	24.5	0.9	その他	17.3	1.3
計	2,061.8	100	計	2,712.7	100	計	1,377.5	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・豪州、ウクライナで下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

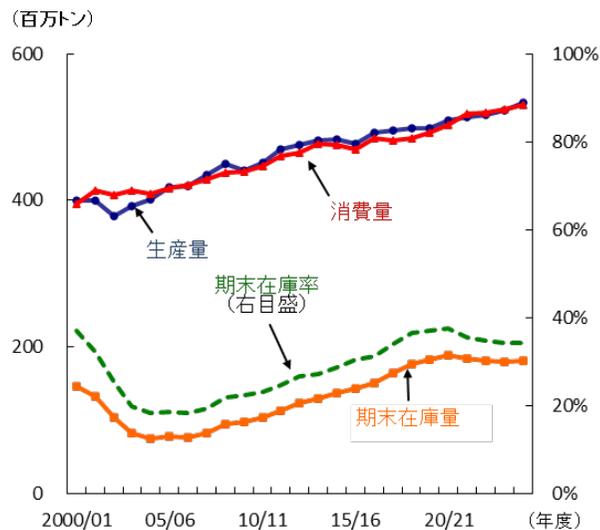
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドネシア等で下方修正されたものの、ネパール、バングラデシュ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・エジプト、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA 「PS&D」 (2025. 3. 11) をもとに農林水産省にて作成

◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

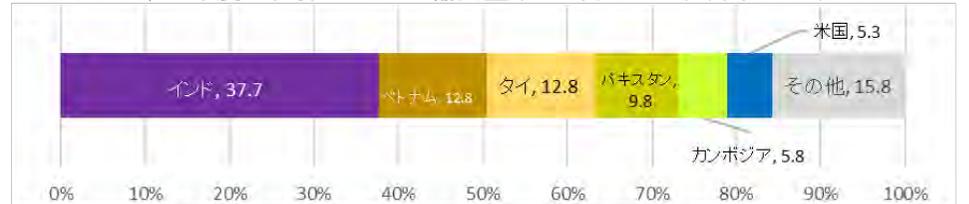
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	516.7	522.3	532.7	▲ 0.01	2.0
消費量	520.2	523.5	530.7	0.2	1.4
輸出量	55.1	56.9	58.4	0.1	2.7
輸入量	57.3	53.5	55.1	0.3	3.1
期末在庫量	180.7	179.6	181.5	▲ 0.1	1.1
期末在庫率	34.7%	34.3%	34.2%	▲ 0.03	▲ 0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 March 2025)

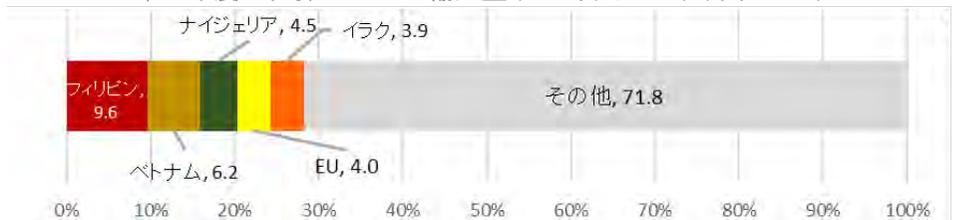
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量 (532.7百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量 (58.4百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量 (55.1百万トン) (単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、灌漑設備の改善による水供給量の増加に伴う作付面積の拡大及び単収の向上により、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」(2025.2)によれば、2024/25 年度の雨季米(2024 年 5 月～10 月作付け)の生産量は、良好な天候から、前年度に比べ 0.3%増の 27.0 百万トン(籾ベース)の見込み。作付面積は、前年度の 994 万ヘクタールから 992 万ヘクタールに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。なお、雨季米の収穫は 1 月に終了している。

2024/25 年度の乾季米(2024 年 11 月～2025 年 4 月作付け)の作付面積は、雨季中の降雨量が多く、十分な灌漑用水を供給できることから、前年度(163 万ヘクタール)から 19%増の 192 万ヘクタールと予測されている。乾季米の栽培が盛んな中部地方を中心に作付けが進んでいる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、インドネシア政府の輸入減の見通しを受け、前年度から 24.2%減少し、7.5 百万トンの見込み。

タイ政府及びタイ米輸出業者協会の共同予測によれば、2024/25 年度の輸出量は、インド政府による輸出規制撤廃による国際市場における競争激化及び、これまでタイ米の主要輸入国であったインドネシアの十分な在庫量及び国内生産の増加から大幅に減少すると予測している。

タイ関税局によれば、2025 年 1 月の輸出量は、前年同期比 33%減の 64 万トンで、主な輸出先国は、イラク 10.5 万トン(国別シェア 16.0%)、米国 9.1 万トン(同 14.2%)、セネガル 5.2 万トン(同 8.2%)。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は、0.8 万トンと大幅に減少し、前年同期比で 97%減となった。

コメータイ

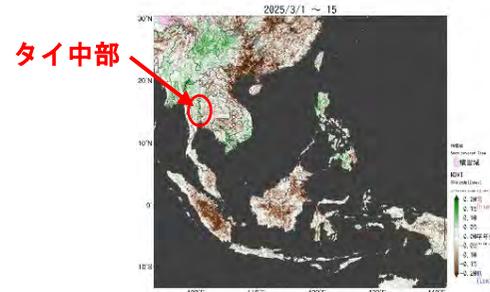
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5
消費量	12.3	12.3	12.3 (12.4)	-	-
輸出量	8.7	9.9	7.5 (7.6)	-	▲ 24.2
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-
期末在庫量	4.4	2.3	2.7 (2.5)	-	17.7
期末在庫率	20.7%	10.2%	13.4% (12.6%)	-	3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5
単収(籾t/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025) (単収は精米t/ha)

図 タイ中部 植生指標 (NDVI) (平年対差) (2025. 3. 1～3. 15)



出典: 農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

写真 北部チェンライ県 圃場風景 (2025 年 3 月 6 日撮影)



乾季米の作付け後の圃場

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測から変更はなく、7.1 百万トンと、長粒種の収穫面積、単収増により、前年度に比べ 1.9%増加し、2020/21 年度以降最高となる見込み。種類別生産量は、前月予測から変更はなく、長粒種は、収穫面積、単収ともに増加し、前年度より 12%増の 5.5 百万トンとなる見込み。一方、中・短粒種は、南部の生産州及びカリフォルニア州における作付面積の減少を受け 1.6 百万トンと前年度より 22%減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測から 0.03 百万トン上方修正され、前年度に比べ 7.0%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

前月予測からの引き上げは、長粒種によるもので、タイからのジャスミン米とインドからのバスマティ米の輸入ペースが好調なことによる。

2024/25 年度の輸出量は 3.1 百万トンと、北東アジア向けの中・短粒米の販売が好調であったことから、前月予測から 0.03 百万トン上方修正されたものの、前年度に比べ 1.3%減少する見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11)によれば、米国産長粒種の FOB 価格は、中南米向けの販売減少により、前月から 19 ドル/トン下落し、3月7日現在、678 ドル/トン。ウルグアイ産米は、新米の収穫を受け、前月から 56 ドル/トン下落し、3月7日現在、612 ドル/トン。米国産に対し価格競争力を有している(ベトナムの「図 長粒種の FOB 価格の推移」参照)。

同「Exports Sales Query System」(2025.3)によれば、2024/25 年度(2024 年 8 月～2025 年 2 月)の輸出量は 155.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 37.0 万トン(国別シェア 25.4%)、ハイチ 17.0 万トン(同 11.6%)、日本 12.2 万トン(同 8.4%)の順。種類別には、長粒種は、輸出量 125.5 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 42.8 万トン(国別シェア 34.1%)、ハイチ 18.6 万トン(同 14.8%)、イラク 8.8 万トン(同 7.0%)。中・短粒種は、輸出量 30.2 万トンで、主な輸出先国は、日本 15.2 万トン(国別シェア 50.3%)、韓国 6.7 万トン(同 22.2%)、メキシコ 3.4 万トン(同 11.3%)。2024/25 年度の期末在庫量は、前年度に比べ 17.3%増加し、1.5 百万トンの見込み。

コメー米国

長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8月～25年 7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.1	-	1.9
消費量	4.6	4.9	5.3	-	7.1
輸出量	2.1	3.1	3.1	0.03	▲ 1.3
輸入量	1.3	1.4	1.5	0.03	7.0
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	-	17.3
期末在庫率	14.4%	15.8%	17.8%	▲ 0.1	2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.16	-	-
単収(粍t/ha)	8.28	8.56	8.69	-	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料: USDA 「Rice Outlook」(2025.2.13)をもとに農林水産省で作成。
価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、政府の最低支持価格の上昇により、収穫面積が増加（前年度比 0.2%増）することから、前年度比 0.5%増の 145.3 百万トン（精米ベース）となる見込み。

中国農業農村部「2025 年南部早稲生産技術に関する指針」（2025.3.5）によれば、南部（華南、華中、西南高原）では、早稲の作付作業が南から北へ順次進められている。2 月中旬以降、江南地方（上海市、江蘇省南部、安徽省、浙江省北部、江西省、福建省一部地域）では、5～6 日間にわたり降雨が続いた。中国気象当局予報では、南部稲作地域では、春の気温が平年並みからやや高めとなる見込みであるが、寒気の影響も生じるとのこと。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、145.9 百万トンとなる見込み。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.5%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、世界のコメ価格の下落を受け、ベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 37.3%増の 2.1 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、12 月の輸入量は、前月に比べ 20.33 万トン増加し、37.48 万トン（前月比 118.54%増）。内訳は、タイ 11.57 万トン（国別シェア 30.9%）、ミャンマー10.32 万トン（同 27.5%）、パキスタン 6.72 万トン（同 17.9%）の順。

USDA によれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比 38.7%減の 1.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、103.5 百万トンと前年度に比べ 0.5%増の見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.0	144.6	145.3 (145.3)	-	0.5
消費量	155.0	148.1	145.9 (145.5)	-	▲ 1.5
輸出量	1.7	1.6	1.0 (1.6)	-	▲ 38.7
輸入量	4.4	1.5	2.1 (2.4)	-	37.3
期末在庫量	106.6	103.0	103.5 (101.8)	-	0.5
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.5% (69.2%)	-	1.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.01 (29.01)	-	0.2
単収(t/ha)	7.08	7.14	7.15 (5.01)	-	0.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25 年度)



資料: USDA 「PS&D」(2025.3.11)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2% 増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、145.0 百万トンと、前年度比で 5.2% 増加、過去 5 年平均（134.5 百万トン）と比べ 7.8% 増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、50.0 百万ヘクタールと前年度に比べ 4.5% 増加し史上最高となる見込み。単収も 4.35 トン/ヘクタールと、前年度（4.32 トン/ヘクタール）と比べ 0.7% 増と史上最高となる見込み。

インド農業・農民福祉省によると、2024/25 年度の南部・東部・北東部の平原におけるラビ米（乾季米）の作付けはほぼ完了し、2月4日時点で、前年度（40.59 百万ヘクタール）から 4.8% 増加し、42.54 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、旺盛な国内需要から前年度比 4.0% 増の 121.0 百万トンとなる見込み。なお、国民の食料安全保障を確保するため、食料安全保障法に基づき、公的食料配給制度（PDS）が実施されており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

2024/25 年度の輸出量は、先月予測から変更はなく、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、アフリカ及び中東向け輸出が増加するとの予測から、前年度比 52.5% 増の 22.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 38% を占める。

インド輸出入統計によれば、2024 年 12 月の輸出量は 252.5 万トンで、主な輸出先国は、ベナン 28.2 万トン（国別シェア 11.1%）、カメルーン 13.8 万トン（同 5.5%）、サウジアラビア 13.6 万トン（同 5.4%）の順。ベナン等のアフリカ諸国向けは非バスマティ米の輸出が主である。インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、碎米の輸出禁止や輸出関税・最低輸出価格の設定等の措置を発動・強化してきたが、史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、バスマティ米の最低輸出価格の撤廃、9 月 27 日に、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20% から 10% へ引き下げ、10 月 23 日に、非バスマティ米の輸出禁止措置の撤廃を発表し、更に 2025 年 3 月 7 日に、禁止していた碎米の輸出再開を発表した。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、2025 年 2 月時点の期末在庫量は、34.01 百万トン（精米）と前年に比べ 62% 増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。中部・西部・北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部・東部・北東部の平原はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月~25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	135.8	137.8	145.0 (144.5)	-	5.2
消費量	114.5	116.4	121.0 (121.0)	-	4.0
輸 出 量	20.3	14.4	22.0 (21.9)	-	52.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	42.0	44.0 (43.3)	-	4.8
期末在庫率	26.0%	32.1%	30.8% (30.3%)	-	▲ 1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	50.00 (50.00)	-	4.5
単収(粒t/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.89)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)、
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025) (単収は精米t/ha)

表 インドのコメ輸出規制の変遷及び対象品目別輸出シェア

対象品目	措置内容							2024年 輸出シェア (%)
	2022/9/9	2023/7/20	2023/8/25	2024/9/14	2024/09/ 27-28	2024/10/23	2025/3/7	
全ての種類の コメの粗米	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	1.99
全ての種類の コメの玄米	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	2.31
バスマティ米の 精米	12,000ル ピー/トン (日本円で約2 万円/トン)	12,000ルピー/ トン	12,000ルピー/ トン 最低輸出価格 1,200ドル/トン	12,000ル ピー/トン	12,000ル ピー/トン	12,000ルピー/ トン	12,000ル ピー/トン	32.92
パーボイルド米 の精米	無税	無税	輸出税 (20%)	輸出税 (20%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	輸出税 (10%)	45.25
バスマティ米・ パーボイルド米 以外の精米	輸出税 (20%)	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	無税 最低輸出価格 490ドル/トン	無税	無税	13.31
碎米	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出禁止	輸出再開	4.22

※赤字は規制強化、青字は規制緩和
※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料: インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく26.5百万トンと、前年度を0.8%上回る見込み。2016/17年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流通減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にあったが、2024/25年度の収穫面積は6.95百万ヘクタールと前年度に比べ0.7%増加する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.3）によると、紅河デルタ地域（北部）では、乾季米（冬春作）が作付け及び生育期にあり、温暖な天候と灌漑整備が進み、総作付面積は1.05百万ヘクタールとなっている。メコンデルタ地域（南部）では、乾季米（冬春作）の収穫が開始されており、収穫面積は作付面積1.90百万ヘクタールのうち40万ヘクタールに達し、単収は7.1トン/ヘクタールと前年と同水準となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ10.5%減の3.4百万トンとなる見込み。ベトナムのコメ輸入の大部分をカンボジアが占めており、カンボジアで精米されたほとんどがベトナム向けに出荷され、残りはインドから輸入している。

2024/25年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、インドネシア政府調達への減少及び世界第1位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等を実施したことによる同国との競争激化が予想され、前年度から17.0%減少し、7.5百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2025年1月～2月の輸出量は123.0万トンと、前年同期（104.6万トン）に比べ17.6%増加した。主な輸出先国は、フィリピン54.7万トン（国別シェア44.5%）、コートジボアール21.3万トン（同17.3%）、ガーナ11.2万トン（同9.1%）、中国7.3万トン（同5.9%）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.3.11）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の3月7日までの週の価格は、インドネシア向けの需要低迷を反映し、前月2月7日までの週から7ドル/トン下落し、387ドル/トンとなった。

コメベトナム

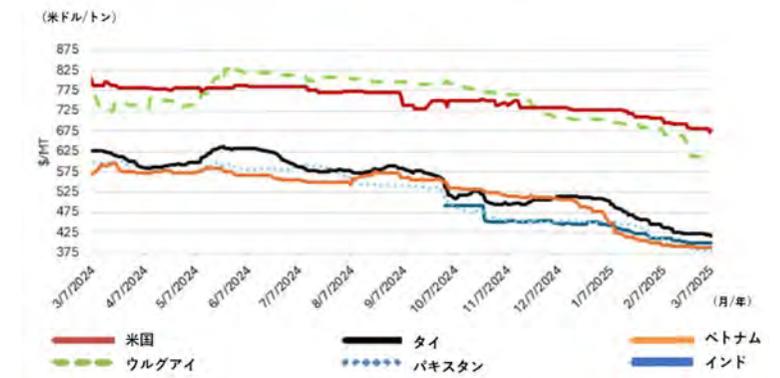
北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	27.1	26.3	26.5 (28.6)	-	0.8	
消費量	22.4	22.4	22.4 (22.5)	-	-	
輸 出 量	8.2	9.0	7.5 (7.5)	-	▲ 17.0	
輸 入 量	3.3	3.8	3.4 (2.2)	-	▲ 10.5	
期末在庫量	3.4	2.0	2.0 (2.9)	-	-	
期末在庫率	11.0%	6.5%	6.8% (9.6%)	-	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.12	6.90	6.95 (7.12)	-	0.7	
単収(粍t/ha)	6.10	6.10	6.10 (4.02)	-	-	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025) (単収は精米t/ha)

図 長粒種の FOB 価格の推移 (2024年3月7日～2025年3月7日)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2025.3.11)より

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

・ウクライナ、メキシコ、豪州で上方修正されたものの、南アフリカで下方修正され、全体として前月からの変更はなく、史上最高の見込み。

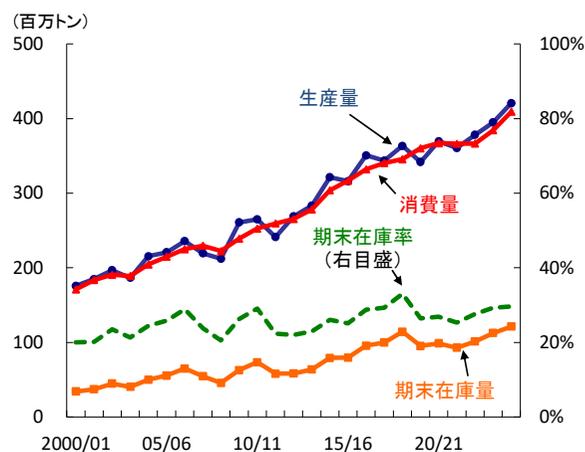
消費量 前年度比 前月比

・イラン等で下方修正されたものの、中国、アルゼンチン、タイ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正され、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・カナダ、豪州で上方修正されたものの、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA 「PS&D」 (2025. 3. 11) をもとに農林水産省で作成

◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

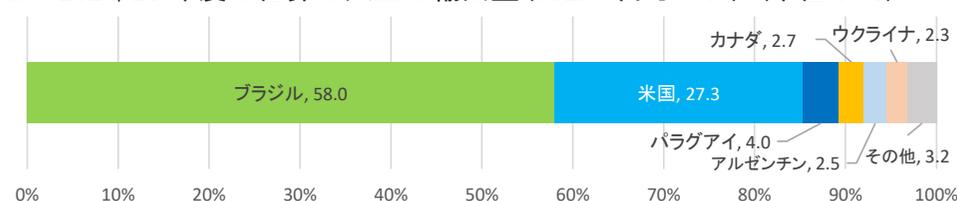
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	378.2	395.0	420.8	-	6.5
消費量	366.7	384.4	409.2	3.0	6.4
うち搾油用	315.6	331.3	352.8	2.9	6.5
輸出量	171.8	177.5	182.0	▲ 0.03	2.5
輸入量	168.6	178.3	179.2	▲ 0.04	0.5
期末在庫量	101.2	112.6	121.4	▲ 2.9	7.9
期末在庫率	27.6%	29.3%	29.7%	▲ 0.9	0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 March 2025)

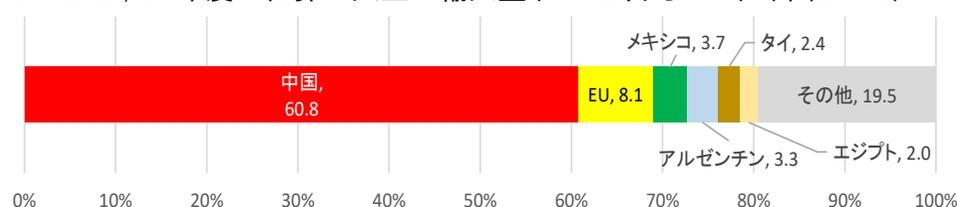
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量 (420.8 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出量 (182.0 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量 (179.2 百万トン) (単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 4.9%増の 118.8 百万トンと史上 4 番目の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からわずかに下方修正されたものの、大豆油等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.7%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDAによれば、2024 年 9 月～2025 年 2 月の輸出量は 3,771.5 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 3,429.7 万トンより 10.0%増。内訳は中国 1,972.2 万トン（国別シェア 52.3%）、メキシコ 279.5 万トン（同 7.4%）、エジプト 203.8 万トン（同 5.4%）の順となっている。

2025 年 2 月 4 日、米国政府は、中国からの全輸入品に 10%の追加関税を発効し、3 月 4 日から更に 10%追加し、合わせて 20%の追加関税を課した。それに対し、2025 年 3 月 4 日、中国国務院関税税則委員会は、米国産農水産物の輸入に関し追加関税を賦課すると発表した。大豆について 10%の追加関税が賦課され 3 月 10 日から適用される。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 10.9%増の 10.3 百万トンとなる見込み。期末在庫率は、前月予測からの変更はなく、8.7%と、前年度（8.3%）、過去 5 年平均（8.0%）を上回っている。

大豆－米国

（概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	118.8	-	4.9
消費量	63.3	65.6	68.7	▲ 0.01	4.7
うち搾油用	60.2	62.2	65.6	-	5.5
輸 出 量	53.9	46.1	49.7	-	7.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.5	-	▲ 5.3
期末在庫量	7.2	9.3	10.3	-	10.9
期末在庫率	6.1%	8.3%	8.7%	-	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.82	-	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.41	-	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高（対前年度比 2.8%増）となり、主要生産地の中西部で生育期を通じて天候に恵まれ単収も増加（同 7.5%増）する見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2025.3.13）によれば、2024/25 年度の実生産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加（対前年度比 2.8%増）及び単収の増加（同 10.2%増）から前年度より 13.3%増の 167.4 百万トンの見通し。2 月末現在、収穫進捗率は 48%と、2 月の降雨量の減少による収穫作業の急速な進展を受けて前年同期（47%）を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費の増加を受けて前年度より 2.6%増の 60.1 百万トンと史上最高の見込み。

「OIL WORLD Monthly」（2025.2.21）によれば、ブラジル政府は、バイオディーゼル混合基準について、2025 年 3 月に予定されていた、現行の 14%から 15%への引上げを取りやめた。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023/24 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 2 月の輸出量は 1,676.6 万トンで、豊作の 2022/23 年度からの減産を受けて前年同期（2,408.7 万トン）に比べ 30.4%減。輸出先は、中国 1,288.7 万トン（国別シェア 76.9%）、タイ 126.2 万トン（同 7.5%）、イラク 56.6 万トン（同 3.4%）の順。

「OIL WORLD Monthly」（2025.2.21）、「OIL WORLD Weekly」（2025.2.28）によれば、2 月下旬現在、収穫遅延により開始が遅れていた 2024/25 年度の実輸出が本格化しているとみられる。3 月から 5 月にかけて、内陸輸送の物流が輸出のボトルネックにならないか注視する必要がある。

大豆—ブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()	はCONAB		
生産量	162.0	153.0	169.0	(167.4)	-	10.5
消費量	57.2	58.6	60.1	(60.7)	-	2.6
うち搾油用	53.4	54.7	56.0	...	-	2.4
輸 出 量	95.5	104.2	105.5	(105.7)	-	1.3
輸 入 量	0.2	0.9	0.2	(0.5)	-	▲ 82.8
期末在庫量	36.8	28.0	31.5	(2.2)	-	12.7
期末在庫率	24.1%	17.2%	19.0%	(1.3%)	-	1.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.60	46.10	47.40	(47.45)	-	2.8
単収(t/ha)	3.63	3.32	3.57	(3.53)	-	7.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
CONAB「Graos」(13 March 2025)

写真 南部パラナ州の大豆の収穫風景 (2025 年 3 月 3 日撮影)



当圃場の作付作業は 2024 年 10 月 16 日に行われ、現在収穫作業が行われている。2 月に降雨量が減少し、当初遅れていた収穫作業が急速に進展した。

撮影者：Thiago Terabe

< カナダ > 2024/25年度の生産量は前年度から8.4%増加する見込み(AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.3.21)によれば、2024/25年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、主要生産地で収穫面積が増加するとともに、良好な天候を受け単収が増加したこと等により、前年度(7.0百万トン)から8.4%増の7.6百万トンの見込み。米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の実生産量は前年度から8%増の4.4百万トンの見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2025」によれば、2025/26年度の作付意向面積は、前年度から1.3%減の227万ヘクタールの見込み。州別には、オンタリオ州では前年度より7.8%増の117万ヘクタールと増加するものの、ケベック州では前年度より4.9%減の40万ヘクタール、マニトバ州では前年度から14.1%減の65万ヘクタールと減少する見込み。AAFCによれば、2025/26年度の作付面積は、大豆価格の低下を受けて農家が他作物に作付けをシフトさせることが見込まれることから、2024/25年度から減少するとみられる。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要増により前年度(2.2百万トン)から11.6%増の2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給増を受けて前年度(4.9百万トン)より11.9%増、過去5年平均(4.3百万トン)より27.0%増の5.5百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25年度(2024年8月～2025年1月)の輸出量は333.9万トンで、前年同期(302.0万トン)に比べ10.6%増。国別では、中国88.7万トン(国別シェア26.6%)、イラン78.0万トン(同23.4%)、アルジェリア43.8万トン(同13.1%)の順となっている。

AAFCによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度から4.2%増の0.6百万トンの見込み。

大豆—カナダ

(概ね5～6月に作付けされ、9～11月に収穫される。)

(単位:百万トン)

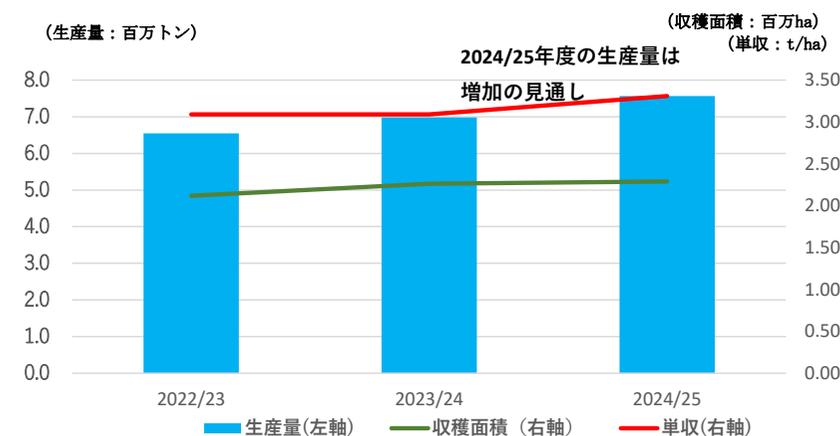
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.5	7.0	7.6 (7.6)	-	8.4
消費量	2.7	2.3	2.7 (2.5)	▲ 0.2	18.5
うち搾油用	1.8	1.7	1.6 (1.9)	▲ 0.2	▲ 3.1
輸出量	4.2	4.8	5.0 (5.5)	0.2	3.2
輸入量	0.5	0.3	0.4 (0.4)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.8 (0.6)	▲ 0.05	38.7
期末在庫率	5.3%	7.9%	10.1% (7.2%)	▲ 0.7	2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.29 (2.29)	-	1.3
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.30 (3.31)	-	6.8

資料: USDA「PS&D」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(21 March 2025)

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料: AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.3.21)をもとに
農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少を受けて前年度より 0.9%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」(2024.12.13)によれば、2024 年の生産量は、前年から 0.9%減の 20.7 百万トンとなる見込み。単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、作付面積は 10.34 百万ヘクタールと前年より 1.4%減少することによる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 5.8%増の 128.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なものの、伸びが鈍化しており、中国国家统计局(2025.1.17)によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～12 月の輸入量は、前年同期より 6.5%増の 10,503.5 万トン。内訳は、ブラジル 7,465.0 万トン(71.1%)、米国 2,213.4 万トン(21.1%)、アルゼンチン 410.2 万トン(3.9%)の順。12 月の米国からの輸入量は 425.4 万トンと、前月比で 52.4%増、前年同月比で 10.5%増となった。これは、ブラジル産大豆の端境期に当たり、米国産の輸入を増やしたためとみられる。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 1 月号」によれば、1 月の国内価格は 4,300 元/トンと、2024 年 11 月から横ばいで推移している。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量の引上げを受けて前月予測から 2.0 百万トン下方修正されたものの、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 1.5%増の 44.0 百万トンと史上最高の見込み。

大豆—中国

(概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.7)	-	▲ 0.9
消費量	117.5	121.8	128.9 (127.8)	2.0	5.8
うち搾油用	96.0	99.0	105.0 (105.8)	2.0	6.1
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
輸 入 量	104.5	112.0	109.0 (109.0)	-	▲ 2.7
期末在庫量	32.3	43.3	44.0 (48.8)	▲ 2.0	1.5
期末在庫率	27.5%	35.5%	34.1% (38.2%)	▲ 2.1	▲ 1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.33 (10.36)	-	▲ 1.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	2.00 (1.99)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC「Grain Market Report」(20 February 2025)

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量:万トン、シェア:%)

2022年1月～12月			2023年1月～12月			2024年1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	5,439.3	61.0	ブラジル	6,993.0	70.7	ブラジル	7,465.0	71.1
米国	2,780.2	31.2	米国	2,374.3	24.0	米国	2,213.4	21.1
アルゼンチン	351.8	3.9	アルゼンチン	199.2	2.0	アルゼンチン	410.2	3.9
ウルグアイ	178.8	2.0	カナダ	146.6	1.5	ウルグアイ	145.3	1.4
カナダ	71.9	0.8	ロシア	129.3	1.3	カナダ	122.8	1.2
ロシア	69.4	0.8	南アフリカ	14.7	0.1	ウクライナ	61.5	0.6
その他	30.4	0.3	その他	38.6	0.4	その他	85.5	0.7
計	8,921.8	100.0	計	9,895.7	100.0	計	10,503.5	100.0

資料:中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.6%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 1.6%増の 49.0 百万トンの見込み。増産の主な要因は、大豆の収益性が高まっていることに加え、農家が病害虫のヨコバイによる被害懸念からとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせ収穫面積が減少したことによるとみられる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.3.11) によれば、3月上旬、主要農業生産地域では、降雨を受けて、未成熟の作物の生育に好影響を与えた一方、既に成熟していた早植え作物の乾燥と収穫が遅れたとみられる。

アルゼンチン農牧漁業省 (MAGyp) の月報 (2025.2.20) によれば、遅植え大豆の作付作業は 2月上旬に完了。早植え大豆は 2024 年 12 月～2025 年 1 月の高温乾燥の影響で単収が減少することが見込まれているものの、2月の降雨を受けて多少改善されるとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、増産に伴い搾油量が增加することから、前年度比 13.2%増の 49.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的に大豆を 26%、大豆油及び大豆粕を 24.5%に引き下げると発表した。

大豆—アルゼンチン

(早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫。
遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫。)

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	48.2	49.0 (48.0)	-	1.6
消費量	36.6	43.8	49.6 (48.5)	1.0	13.2
うち搾油用	30.3	36.6	42.0 (42.0)	1.0	14.8
輸出量	4.2	5.1	4.5 (5.4)	-	▲ 11.9
輸入量	9.1	7.8	6.0 (5.7)	-	▲ 23.0
期末在庫量	17.0	24.1	25.0 (8.5)	▲ 1.0	3.7
期末在庫率	41.7%	49.1%	46.1% (15.7%)	▲ 2.8	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.40	16.37	17.30 (17.33)	-	5.7
単収(t/ha)	1.74	2.95	2.83 (2.77)	-	▲ 4.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 March 2025)
IGC 「Grain Market Report」(20 February 2025)

写真 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景 (2025 年 2 月 24 日撮影)



本圃場では遅植え大豆の作付作業が 2024 年 11 月前半に行われ、現在は生殖成長期にある。2月の降雨量は 261mm と多く、最高気温は 41.4℃ と高く、作物の生育に良好な条件となった。収穫作業は 4 月を予定。

撮影者：José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

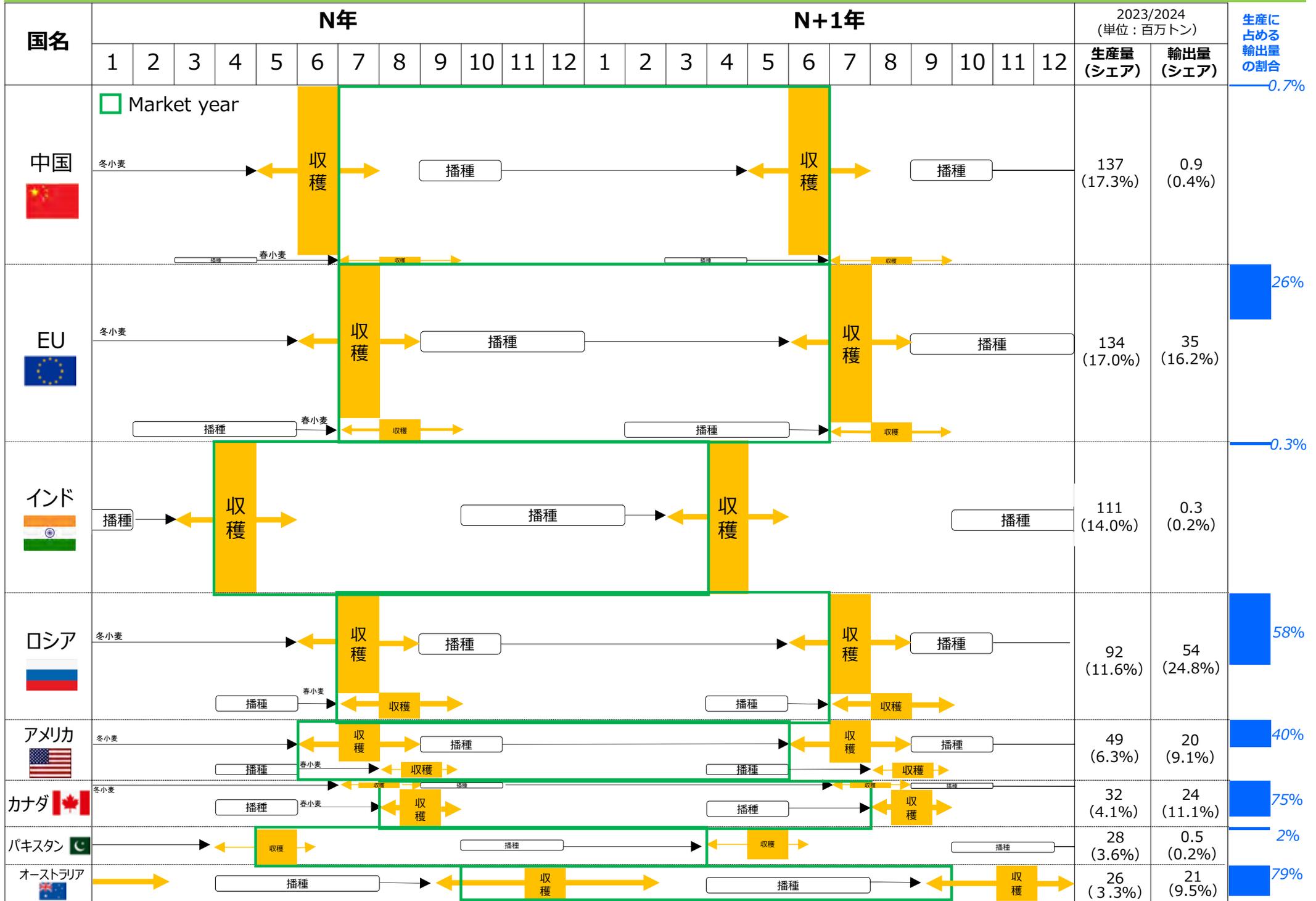
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			
---	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



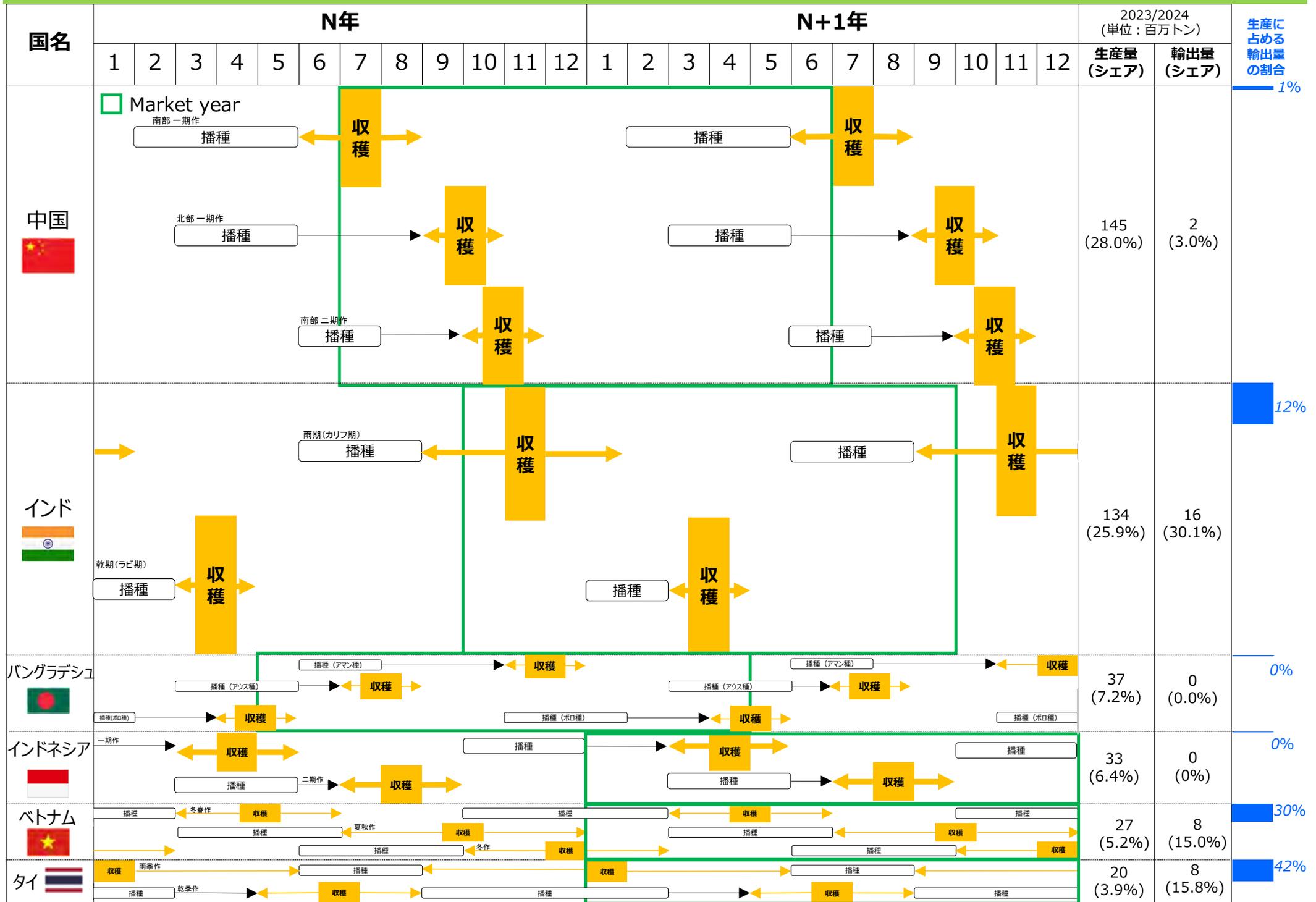
資料: AMIS [Supply and demand balances manual]、USDA [Crop Calendars]、[PS&D] (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他:

主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

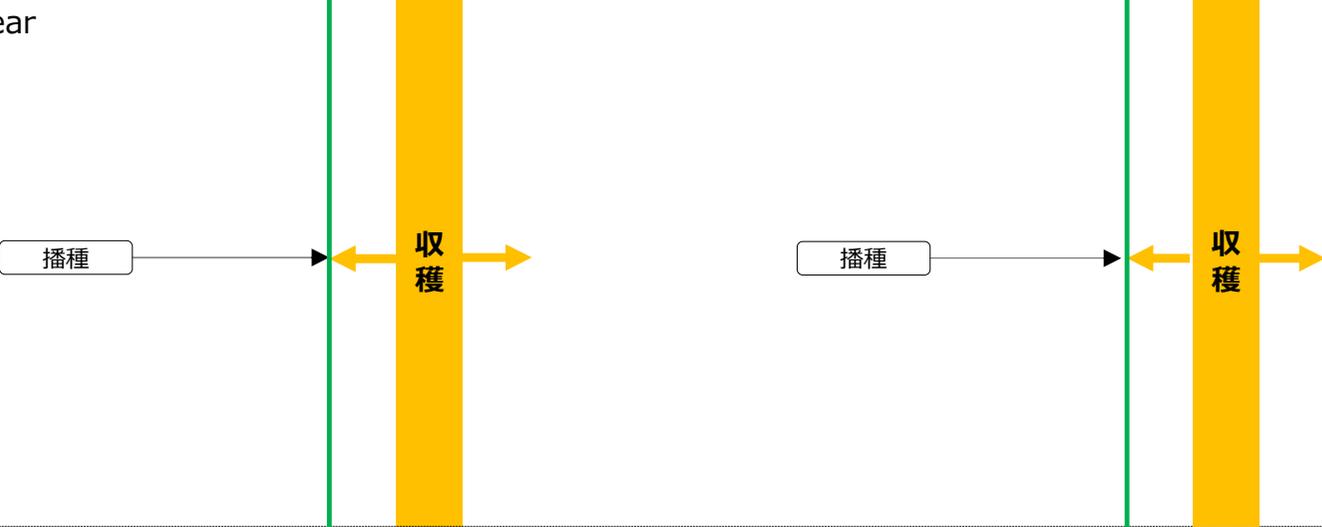
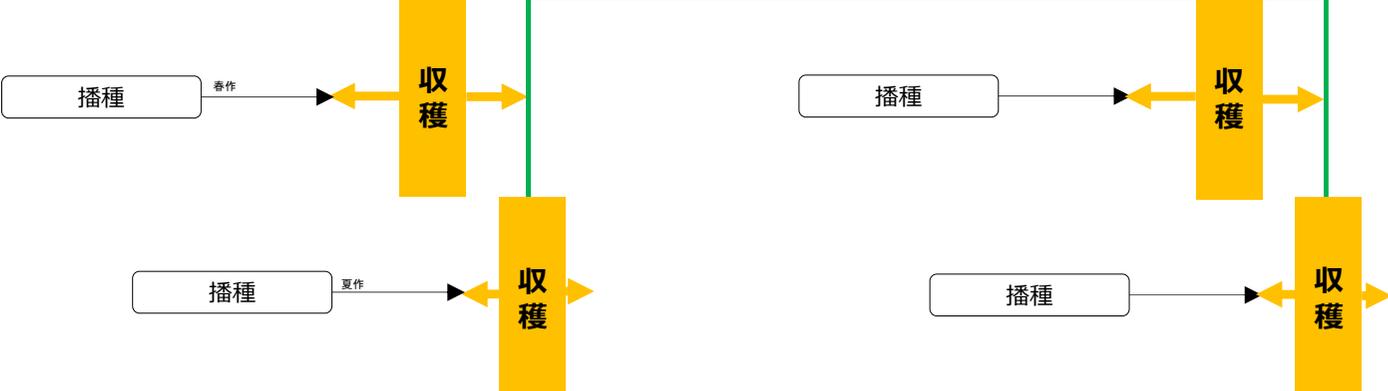
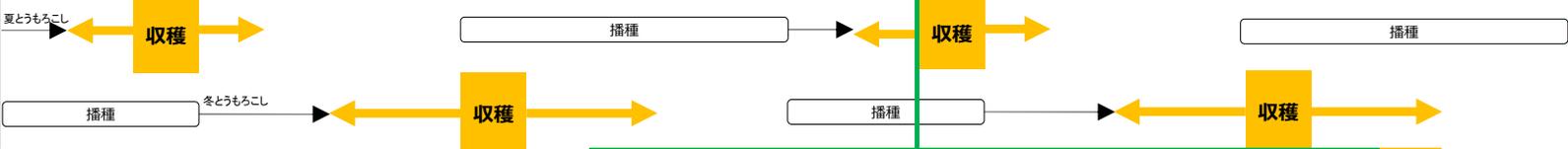
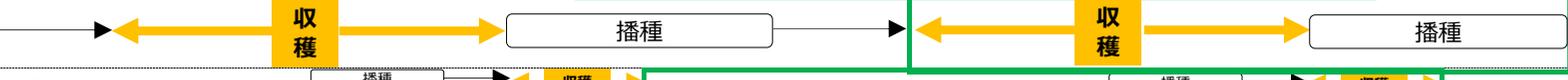


資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「Crop Calendar」、「PS&D」 (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 其他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

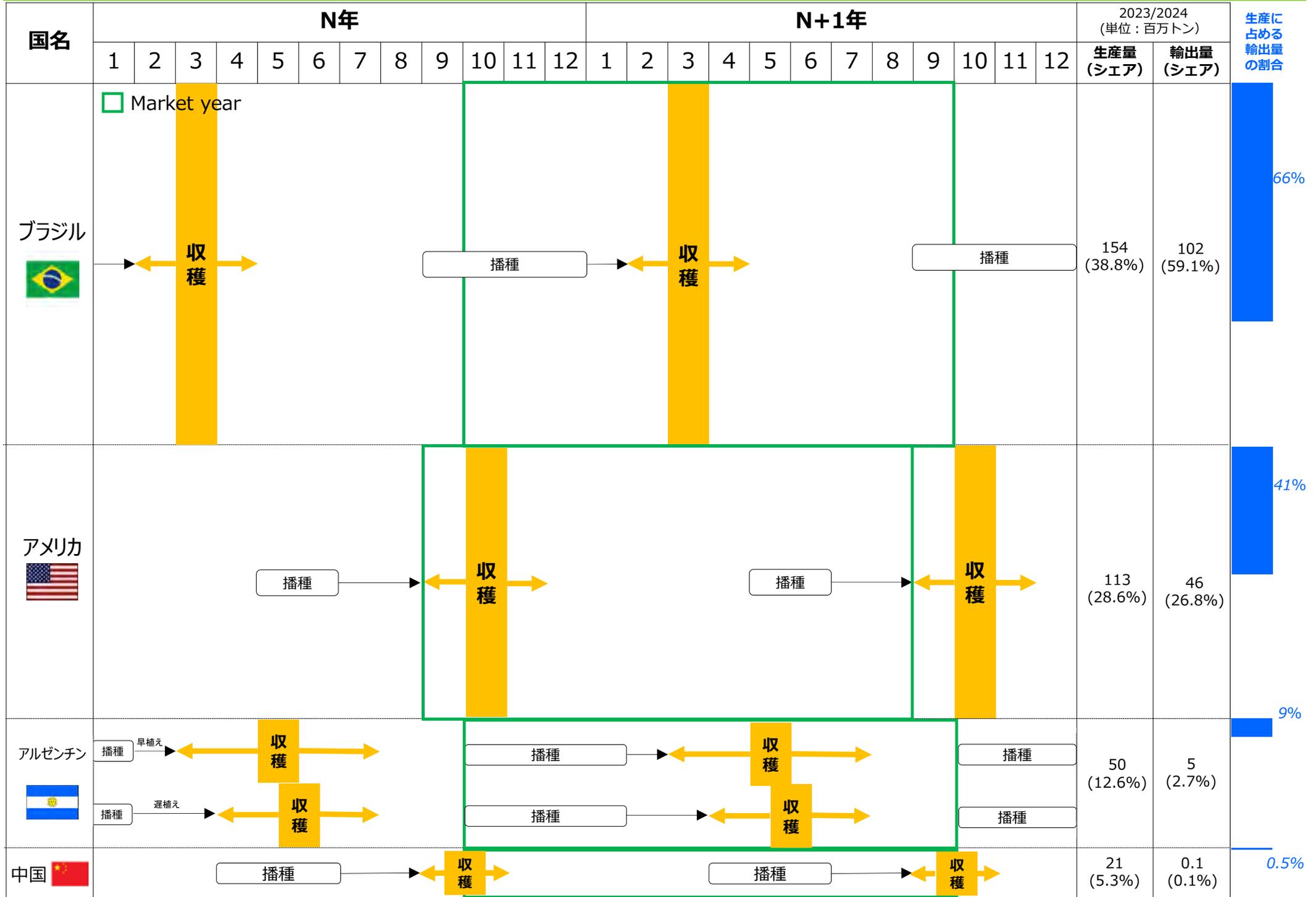
主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位:百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	□ Market year																				390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%				
中国 													289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%												
ブラジル 													122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%												
EU 													61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 													53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 													38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%												
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。																					276 (22.5%)	50 (25.2%)	その他 :				

主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。その他：

59 (14.8%)
20 (11.3%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種						収穫	播種						20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%				
カナダ 							播種	収穫						播種	収穫						19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%				
中国 							収穫						播種	収穫						15 (17.4%)	0 (0%)	0%					
インド 							収穫						播種	収穫						13 (14.1%)	0 (0%)	0%					
オーストラリア 							播種	収穫						播種	収穫						6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%				
ウクライナ 							収穫	播種						収穫	播種						4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%				
ロシア 							播種	収穫						播種	収穫						4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%				

資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)